

図2. インフルエンザの都道府県別報告状況 (2007年第45週)

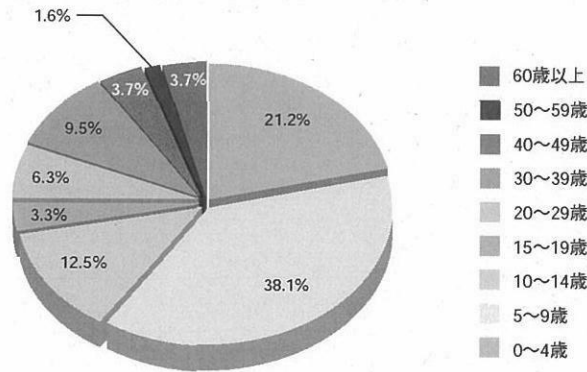


図3. 2007/08シーズンのインフルエンザ累積報告数の年齢群別割合 (2007年第36～45週)

表1. 都道府県別インフルエンザウイルス分離・検出状況(2007年第36~45週)

都道府県名	ウイルス亜型		
	A(H1)	A(H3)	B
北海道	22	0	0
埼玉県	1	4	0
千葉県	15	1	0
東京都	7	0	0
神奈川県	11	0	0
愛知県	4	2	0
滋賀県	4	0	0
大阪府	5	0	0
兵庫県	3	0	0
岡山県	2	0	0
広島県	4	0	0
沖縄県	11	0	0
合計	89	7	0

第45週は日本国内の複数の地域においてインフルエンザの患者報告数の増加が見られ、定点当たり報告数は0.50となった。1997/98年シーズン以降の過去10シーズンの同時期と比較しても最も多い値となっている。今後更に報告数が増加し、早期に全国的な流行へと発展する可能性も高まってきている。インフルエンザの発生動向にはより一層の注意が必要である。